



営農NEWS



未成熟ソラマメ、サヤエンドウの病害虫防除

未成熟ソラマメやサヤエンドウの秋まき春どり露地栽培では、冬季が厳しい寒さで経過し、霜や強風による株の傷みがひどくなっています。これから、生育を回復させるための管理作業を行うとともに、例年、茎葉や種実被害を生じる病害虫の発生に注意が必要になります。

1 未成熟ソラマメで収穫期までに発生する主な病害虫として、えそモザイク病、モザイク病、赤色斑点病、褐斑病、輪紋病、さび病、立枯病、茎腐病、菌核病、アブラムシ類などがあります。えそモザイク病は土壌伝染し、ウイルス病の中で最も被害が大きく、茎葉にえそ斑を生じ、進展すると萎縮、枯死します。モザイク病は主にアブラムシ類によって媒介され、モザイクや変形症状になりますので、媒介虫の防除が必要になります。立枯れする病害には、えそモザイク病の他に立枯病（フザリウム菌）、茎腐病（リゾクトニア菌）、菌核病などがあります。また、茎葉に斑点を生じる病害には、赤色斑点病、褐斑病、輪紋病などがあり病斑が類似しています。赤色斑点病は初期にはチョコレート色の小斑点ですが、雨が多くて進展すると大型病斑になります。褐斑病は3～5mmの中型の褐色病斑、輪紋病は比較的大型の褐色病斑を形成します。これらは進展すると莢などにも発病して品質低下や減収を招きますので、防除が必要です。

アブラムシ類の主なものはマメアブラムシで、開花・結実の時期となる4月頃から急速に増加してきます。吸汁加害により株やさやの生育不良を招くほか、モザイク病のウイルスを媒介するので早期な防除が必要になります。

表1 未成熟ソラマメの赤色斑点病、輪紋病、さび病の主な防除薬剤（平成26年4月10日現在）

薬剤名	赤色斑点病	輪紋病	さび病
ロブラール水和剤	○		
ジマンダイセン水和剤		○	○
アミスター20フロアブル			○

表2 未成熟ソラマメのアブラムシ類などの主な防除薬剤（平成26年4月10日現在）

薬剤名	アブラムシ類	カメムシ類
アドマイヤーフロアブル	○	
スミチオン乳剤	○	○

2 サヤエンドウでこれから発生する主な病害虫としては、モザイク病、褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、根腐病、ナモグリバエ、アブラムシ類などがあります。モザイク病は主にアブラムシ類によって媒介され、モザイクや変形症状になりますので、媒介虫の防除が必要になります。立枯れする病害には、根腐病（フザリウム菌）、立枯病（フザリウム菌）、茎腐病（リゾクトニア菌）などがあります。茎葉に斑点を生じる病害には、褐紋病、褐斑病、灰色かび病などがあり、褐紋病は褐色の同心円状の中型輪紋病斑、褐斑病は褐色の小型病斑で、進展すると株全体や莢などにも発病して品質低下や減収を招きます。また、うどんこ病は、開花期の4月頃から発生し、軟弱徒長や過繁茂で風通しが悪い条件では多発して枯上りが早まりますので、早期の防除が必要です。

ナモグリバエは、幼虫が葉肉内を食入して不規則な白いすじ状の被害となります。アブラムシ類の主なものはマメアブラムシとエンドウヒゲナガアブラムシで、収穫期の4月頃から増殖してきます。

表3 サヤエンドウの褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、菌核病の主な防除薬剤（平成26年4月10日現在）

薬剤名	褐紋病	褐斑病	うどんこ病	灰色かび病	菌核病
トップジンM水和剤	○	○		○	
アミスター20フロアブル	○			○	○
セイビアーフロアブル20				○	○
サンヨール			○	○	
トリフミン水和剤			○		

表4 サヤエンドウのナモグリバエ類、アブラムシ類の主な防除薬剤（平成26年4月10日現在）

薬剤名	ナモグリバエ	アブラムシ類
スタークル顆粒水溶剤※	○（ナモグリバエ類）	○
パダンSG水溶剤	○	
モスピラン顆粒水溶剤※		○
ハチハチフロアブル	○	

注）※印は同一系統（ネオニコチノイド）剤です。連用は避けてください。

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040